

# 市内2小学校で休校式

## ●切久保小学校

3月16日、切久保小学校で最後の卒業式と休校式が行われ、124年の歴史に幕を閉じました。

全校生8人のうち4人が巣立つ卒業式では、野村校長から「124年の歴史を閉じる卒業生としてふさわしい皆さんでした。中学生となっても自分らしさを大切に生活してください」と式辞。代表の井藤正義くんが「最後の卒業生として誇りを持ち、切久保小学校で学んだことを活かし、中学生を送ります」とあいさつしました。

その後、行われた休校式では、保護者や同校卒業生、地域住民など約150人が出席。地元代表の藤原英雄さんが「少ない人数の中、子どもたちはいろいろな活動を行い、その中でつちかった切久保小学校の伝統を守ってほしい」とあいさつ。最後に同校校歌を斉唱し、学舎との別れを惜しみました。

切久保小学校は明治19年に創設。昭和34年に260人が通っていましたが、平成19年度は8人に減少。在校生4人は芝坂小学校に通うことになります。



## ●大谷小学校

大谷小学校では、3月19日に卒業式、23日に休校式が行われ、127年の歴史に幕を閉じました。

唯一の卒業生の國本靖之くんの卒業式では、甚川正美校長が「心を一つにして努力すれば夢はかないます」と激励。國本くんは「一緒に過ごした年月を決して忘れません。僕の心のふるさと、大谷小学校さようなら」と謝辞を述べました。

休校式では、保護者や地域住民など約80人が出席。地域代表の中山繁さんが「大谷小学校127年の歴史は、子どもの集う場だけではなく、地域の中心として親、子、孫と育まれてきた。これからも大谷小学校を地域を育む場としたい」とあいさつ。在校生の藤中宏樹くんが「来年から通う脇町小学校で大谷小学校のことを話していこう。大谷で過ごしたことを決して忘れません。いつかまたこの校舎で語り合うことを願っています」とあいさつしました。

大谷小学校は明治14年に創設。大正4年に161人が通っていたが、平成19年度は2人に減少していました。